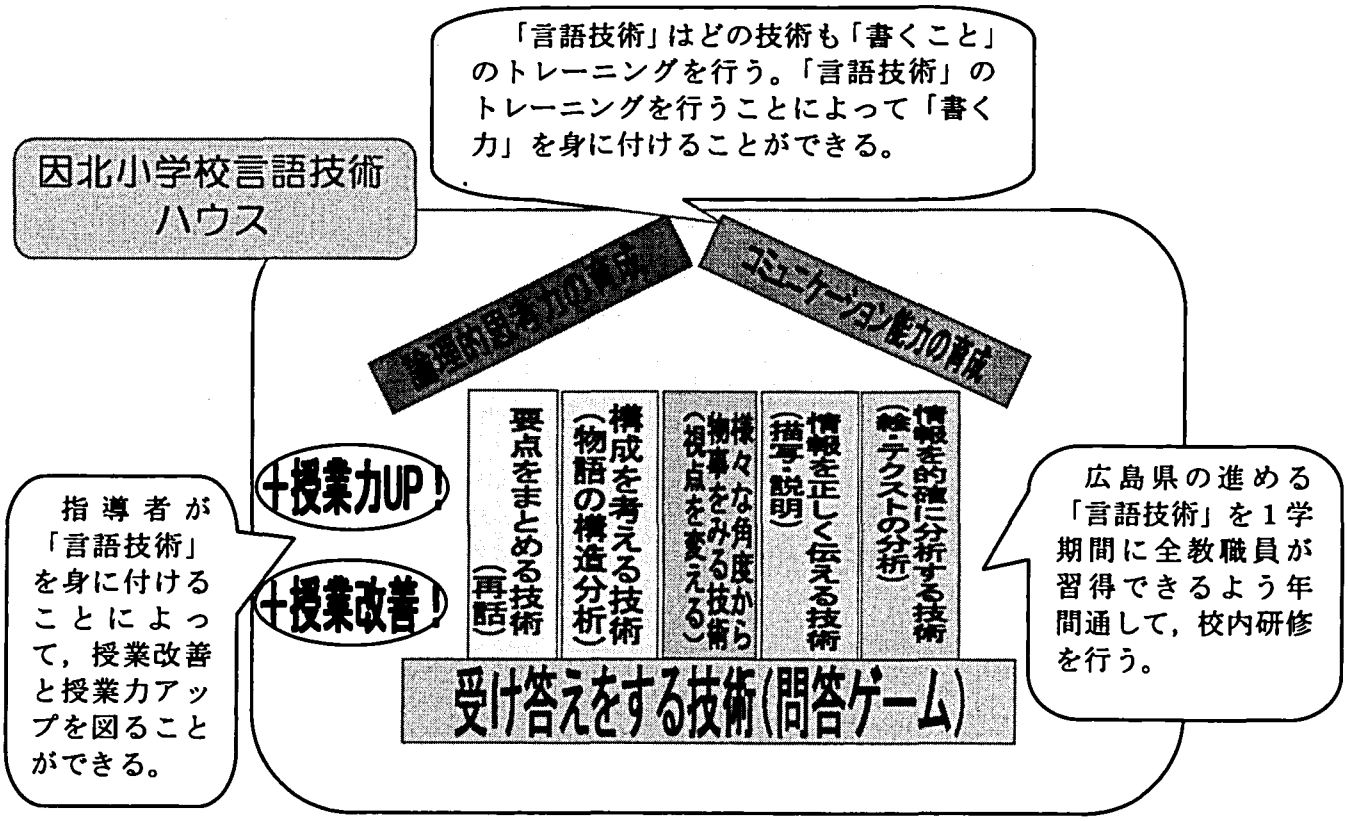
ジグソー学習を成立させるための学び合いの過程

―中学年に，グループ活動を取り入れて―

尾道市立因北小学校　山﨑　千佐

1　実践の趣旨

因北小学校では，平成１７年度より広島県「ことばの教育」パイロット校タイプⅡとして，「言語技術」を全教科領域の中に取り入れ，授業改善に生かした取り組みを進めてきた。「言語技術」を取り入れる大きな目的は２つある。１つ目は，児童に論理的思考力を習得させていくこと。２つ目は，児童にコミュニケーション能力を習得させていくことである。この２つの力を習得させるために，因北小学校では，基本的な「言語技術」を図のような形で示し，「言語技術」を指導者，児童がともに習得していくとともに，「言語技術」を研究科目である国語科に取入れ，研究を重ねてきた。
（因北小学校の「言語技術」は広島県のことばの教育に基づくもので，三森ゆりか氏の指導のもと作られたものである）



【因北小学校の「言語技術」のとらえについて】

本校では，「言語技術」の中の「様々な角度から物事をみる技術（視点を変える）」を文学的な文章に取入れ，児童を様々な登場人物や様々な立場に立たせ読み深めていく。自分が学習していない立場を学習するために，ジグソー学習を取入れてきた。お互いに必然的な学びを学習活動に取り入れ，伝え合いながら学習を成立させる。本校では，高学年の学習形態の１つとしてジグソー学習を行ってきた。現在担任している４年生は，４月から１年間を通して文学的な文章においてジグソー学習を行ってきた。

【ジグソー学習のとらえ】

因北小学校は，平成１８年度より国語科の学習において「言語技術」の「視点を変える」をジグソー学習に取入れ，学習形態の工夫を行ってきた。ジグソー学習とは，社会心理学者のエリオット・アロンソンの著書（ジグソー学習）の本の中で紹介されている。

因北小学校では，文学的な文章の読みに取り入れ，各小グループ（班）ごとに，様々な登場人物の視点に立ち１つの物語を読んでいく。例えば，４年生「ごんぎつね」の場合，主人公「ごん」の立場で読むグループ，登場人物「兵十」の立場で読むグループ，美しい描写や情景の立場から読むグループと，１つの学級で３つの視点から読む。お互いに異なる視点から読んだことを読んだことを交流し，伝え合い，学び合う。

１つのクラスの児童がジグソーパズルのピースになり，学び合う時に１つの大きなパズルが出来上がるような学習形態からジグソー学習と呼ばれている。教師主体の授業から児童が学び合う授業への授業改善の１つのやり方として取り入れている。

２　実践の概要

ジグソー学習はじめの第１歩　　こわれた千の楽器　　４月（８時間）

２Ｃ２Ｔ学年解体による授業を構成する。

<ジグソーとしての目的>

学年解体をして隣のクラスの児童と学ぶ機会を持つ。また，授業の中でお互いにどのように結び合って

<活動目標>

音読ガイドを作ろう（一目で見てわかるような喜怒哀楽カード(色)を使って模造紙に作成する）

４年生４６人による学年を解体しての国語の授業が始まりました。この学年は，１年生の時１クラスで過ごしているせいかとても馴染みやすく，仲の良い学年である。「ジグソー学習をやるよ。」と声をかけると「ジグソーパズルみたい。」と言葉が返ってきました。「その通り，実はねみんな一人一人がパズルのピースだよ。」「えーっ！」「１つなかったらどうなる？」「できないよ！」一人一人がとても大切な１つのピースであることから話をしました。児童は，顔を見合わせながらピースの形を確かめているようでした。そして学年解体で授業することなど伝えました。

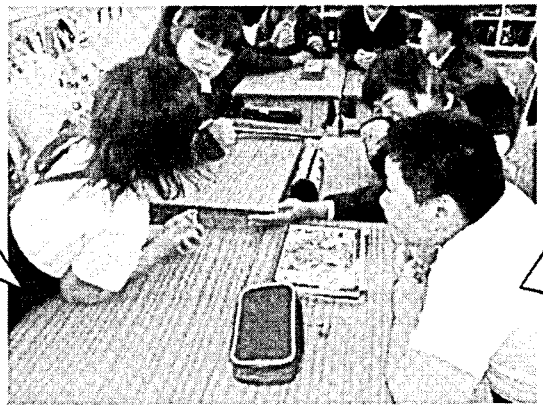
クラス分け，班分けは児童の人間関係を考えながら，この学習のためのクラス分けをする。個の時間だけの学習クラスを作るのである。だから，児童もとても興味を持って国語の時間に臨むことができる。

今回は，初めて２Ｃ２Ｔの授業となります。また，担任二人でやることもあり，グループは機械的に組みました。リーダーは自分たちで決めさせました。リーダーの主な仕事は，対話の時の司会です。この時間はオリエンテーションなので，各班員との顔合わせと対話をさせてみました。この単元の活動目標である「音読」に関わることで対話をさせました。「本を読むとき何に気をつけて読めばいいだろう。」それに対して小さなメモ用紙を渡し班ごとに考えさせました。今回は，３人から４人の班になります。しかし，１人お休みすると大変です。

身を乗り出して，会話をする姿にジグソー学習の不思議なパワーを感じます。１時間目の対話は成功です。どのような読み方をすれば初めての話し合いをしています。

となりのクラスの友だちと学習できる新鮮さが伝わってきました。

学習リーダーを決めました。班対話をするときや，音読をするときに班の中心になってすすめることができました。



型をきめないで，フリートークで語り合うため，とても優しい表情でした。

《ジグソー学習を成立させるために》

１年間を見通して３つの形のジグソー学習を考えた。段階を追った指導を行った。

１学期
こわれた千の楽器
学年解体を行う。隣のクラスの班の友だちと学習を行う。コースは分けないで，２人の指導者が，２つのクラスを指導する。学習リーダーを初めて体験する。今回は，機械的にクラスを決め，学年解体の授業を体験させた。

学年解体

ジグソー学習第２歩

２学期
夏のわすれもの
２Ｃ３Ｔ形式のジグソー学習を組む。２つのクラスを３つに分け，３人の指導者が指導する。授業の途中に指導者が入れかわり，自分のコースで学習したことを他のコースの人に伝える。クラス編成であるので，クラスは機械的に行わず，意図的に児童のクラス，班を決める。

2C3T形式

ジグソー学習第３歩

３学期
ごんぎつね
学級内ジグソーを行う。１つのクラスを２つのコースに分ける。指導者は担任１人が行う。教室内を２つに分け，黒板を設置する。時間を決めて，学習リーダーを中心に全体対話を進める。

学級内ジグソー

因北小学校のジグソー学習は，２Ｃ３Ｔ形式から始まった。このジグソー学習の特徴は，２つのクラスを３つに分けたクラス解体をし，指導者が３人で行うことである。そしてこの文学的な文章の授業をするためのクラス編成がなされるところにある。

２Ｃ３Ｔ形式のジグソー学習の児童側の学習効果は大きく２点ある。まず，１点目は児童が必然的な対話を組織することである。コース別や課題別で学習してきたことを，違うコースで学習してきたグループの人に伝え，１つの課題について考えるため，必ず学習してきたことを伝え合わなけれないのである。そのために，児童は自分のコースで学ぶときに，責任を持って学習することができる。２つ目は，児童主体の授業がなされることである。ジグソー学習の場合自分たちの学んできたコースを自分たちしか知らないので，指導者から教わるだけでなく，自分たちが主体的に伝えていかなければならない。そのために，必然的に主体性が芽生えてくるのである。

次に，２Ｃ３Ｔ形式のジグソー学習の指導者側の学習効果についてである。同じ時間に同じねらいで授業をするため，教材分析を行わなければならない。そのために，教材分析を深めていくことができる。時間もかかるが，指導者自身も学び合う機会を持つことができるのである。

ジグソー学習，指導者の第１歩

２Ｃ２Ｔ学年解体　および　２Ｃ３Ｔ形式のジグソー学習のやり方

①教材をどのように解釈し，「活動目標」を何にするのか決める。単元構成を作る。
②「学び合いシート」の作成（教材観，めざす子ども像，学び合いと言語技術の利用など）
③学年解体と班編成，初歩段階では，学習リーダーを指導者側で決める。
④授業開始と同時に授業についての学年会を毎日行う。
⑤授業終了と同時に「活動目標」の完了。

①～⑤のような手順のもと，ジグソー学習が行われる。ジグソー学習では，指導者同士の教材解釈が重要となる。また，ジグソーのための学級編成も重要になる。また，ジグソーリーダーを育てるためにクラス編成を考える。②の「学び合いシート」の作成は，教材観やめざす子ども像などを指導者同士で確認するものである。③の学年解体と班編成では，児童が初めてのジグソークラスや教材と出会う場面である。授業をやりたくなるような教材との出会いをさせたいと思う。また，どのような「活動目標」で授業構成をするのか，また中心課題を何にするのかなど決めておく。④の授業開始に従い，毎時間学年会を行いながら，授業の進行や児童の様子を交流しながら次の日の「打ち合わせシートを作り確認する。⑤授業を行いながら，「活動目標」を完了できるように計画していく。

ジグソー学習，指導者の第２歩

学級内ジグソー学習のやり方
（学級内ジグソーは指導者が１人のため，
①教材をどのように解釈し，「活動目標」を何にするのか決める。単元構成を作る。
②「学び合いシート」の作成（教材観，めざす子ども像，学び合いと言語技術の利用など）
③学級内ジグソーについて説明をする。学習リーダーを立候補させ，班編成を行う。
④児童の役割で，司会や授業の進め方を確認させながら授業を進める。
⑤授業終了と同時に「活動目標」の完了。

【ジグソー学習を加味した２Ｃ３Ｔジグソーの学習指導計画（全８時間）】

次 (時間)	学習活動	文学体験	言語技術	評価		
				観点	評価規準	方法
一次 (3)	①A，B，Cのコースに分かれて，コース別のオリエンテーションを行う。(ABCコース)	参加	問答	読	学習の見通しを持ち，ジグソー学習の仕方を知り，意欲を持って学習しようとする。	観察 ワークシート①
	②「夏のわすれもの」の全文を読み，再話シートで物語のあらすじをつかみ，初発の感想を書く。(ABCコース)	同化	再話	読	「再話シート」で物語の大まかなあらすじをつかんでいる。	ワークシート② (再話シート)
	③「夏のわすれもの」について物語の構造分析をする。 (ABCコース)	対象化	構造分析	読	物語の構造分析をし，物語のクライマックスをとらえている。	ワークシート③ (構造分析シート)
二次 (3)	**④再話シート，物語の構造分析で学んだことから中心課題を設定する。 (ABCコース)→(ⅠⅡⅢコース)**	**対象化**	**問答**	**読**	**再話シートの心に残ったことと構造分析のクライマックスとの共通点を見つけ，中心課題について考えている。**	**ワークシート③ (構造分析シート)**
	⑤前半場面を読み，「まさる」の気持ちをとらえる。 (ABCコース)→(ⅠⅡⅢコース)	**対象化**	**問答 視点**	**読**	**叙述をもとに，人物の気持ちや場面の様子を読み取っている。**	**ワークシート④**
	⑥後半場面を読み，「まさる」の気持ちの変化をとらえる。 (ABCコース)→(ⅠⅡⅢコース) (本時６／８)	**対象化**	**問答 視点**	**読**	**叙述を基に，人物の気持ちや場面の様子を読み取っている。**	**ワークシート⑤**
三次 (2)	⑦学習したことを元に，「家族へのメッセージ」を書く。	対象化		読	学習したことをもとに，家族へのメッセージを書いている。	ワークシート⑥
	⑧メッセージを読んだ家族からの感想を交流し，家族との関係について考えたことを話し合う。	対象化	問答	読	感想を発表したり，友達の発表を聞いたりして，家族と自分との関係を考えている。	発表 観察 ワークシート⑥

※網かけ＝「言語技術」の利用　　太字＝ジグソー学習

【２Ｃ３Ｔジグソー学習の流れ】

（グループⅠ）			（グループⅡ）			（グループⅢ）		
Ⅰ－１	Ⅰ－２	Ⅰ－３	Ⅱ－１	Ⅱ－２	Ⅱ－３	Ⅲ－１	Ⅲ－２	Ⅲ－３

【各グループが３つのコースに分かれる】

Ⅰ－１－Ａ　Ⅰ－１－Ｂ　Ⅰ－１－Ｃ　Ⅱ－１－Ａ　Ⅱ－１－Ｂ　Ⅱ－１－Ｃ　Ⅲ－１－Ａ　Ⅲ－１－Ｂ　Ⅲ－１－Ｃ

【各コース別学習を行う】

（Ａコース：まさる）　（Ｂコース：情景描写）　（Ｃコース：その他の登場人物）

Ⅰ－１－Ａ　Ⅱ－１－Ａ　Ⅲ－１－Ａ　Ⅰ－１－Ｂ　Ⅱ－１－Ｂ　Ⅲ－１－Ｂ　Ⅰ－１－Ｃ　Ⅱ－１－Ｃ　Ⅲ－１－Ｃ

【元のⅠⅡⅢグループに戻っての対話】

Ⅰ－１－Ａ　Ⅰ－１－Ｂ　Ⅰ－１－Ｃ　Ⅱ－１－Ａ　Ⅱ－１－Ｂ　Ⅱ－１－Ｃ　Ⅲ－１－Ａ　Ⅲ－１－Ｂ　Ⅲ

毎時間作成する。

「夏のわすれもの」　　１０月２日（金）第５校時

全体集合（クイズをする）

Ａ　まさるの視点で読む　Ｂ　情景，描写の立場で読む　Ｃ　その他の登場人物の立場で読む

（課題）そう式で泣かなかったのにひまわり畑を見て泣いたまさるの気持ちを考えよう。

（課題に対して，それぞれＡ，Ｂ，Ｃの立場で読む。）

（各担任は，自分の視点で課題に対して読み深める）

Ａ　まさるの視点で読む　Ｂ　情景，描写の立場で読む　Ｃ　その他の登場人物の立場で読む

（予想される児童の反応）

ひまわり畑を見て今までおじいちゃんと過ごした思い出がよみがえった。明るく，まぶしい自分らしくそんなまさるになりたいと思う。

ひまわり畑を見たときおじいちゃんの言葉とともに，思い出がよみがえってきた。おじいちゃんを思い出した。

おばあちゃんがおじいちゃんのわすれものを渡してくれたことでいつものひまわり畑がちがって見えた。そこでおじいちゃんの死をうけとめられた。

「ひまわり畑」と「まわらぼうし」をキーワードにまさるの気持ちをとらえさせたい。

（読み深めたＡ，Ｂ，Ｃで確認をする）

ジグソー学習（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）

死を受け入れたものは何だったのかに着目をしぼる。

（ＡＢＣの３つのコースを聞き合う）
ひまわり畑を見たことによってやっとおじいちゃんの死を受け入れることができた。

自分たちでは気付かなかったけれど，他のコースで新しく発見できなかったところはどこだろう。Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで学び合ったことを全体交流で出し合い，自分の班の考えと違ったところに気づかせる。ミニワークシートの書かせかたに気をつける。

班対話（ＡＢＣで意見を出させる）→班でまとめたことを全体に出す（しぼってまとめさせ班長に発表させる）→キーワード化させる（理由を言わせる）

（ジグソー学習によって学び合ったことで新しく発見できたことについて評価する）

そう式で泣かなかったのにひまわり畑を見て泣いたまさるの気持ちを考えよう。
（例）ありがとう，わかったよ，気付いたよ，ひまわりになる，大丈夫だよ

全体集合「キーワード」を比較する

３つのコースごとに，前半２０分間の授業のねらいをきめて確認する。

１段階
ＡＢＣのコース別

本時の中心課題に向けて，３つのコースで学習を進める。

２段階
ＡＢＣのコース
↓
ⅠⅡⅢのジグソー学習へ

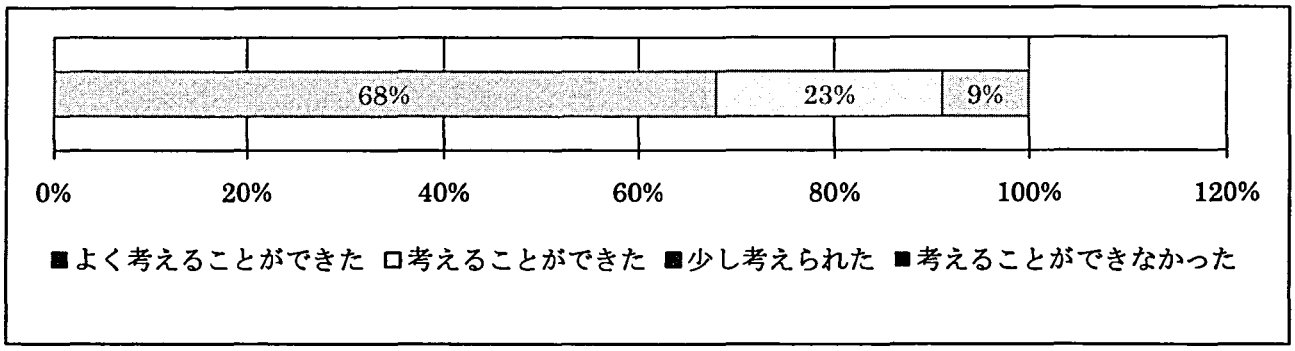
「夏のわすれもの」では課題に対して，学習したことをジグソーグループで「キーワード」を作り，全体で比較した。

第３段階
学年全体の交流

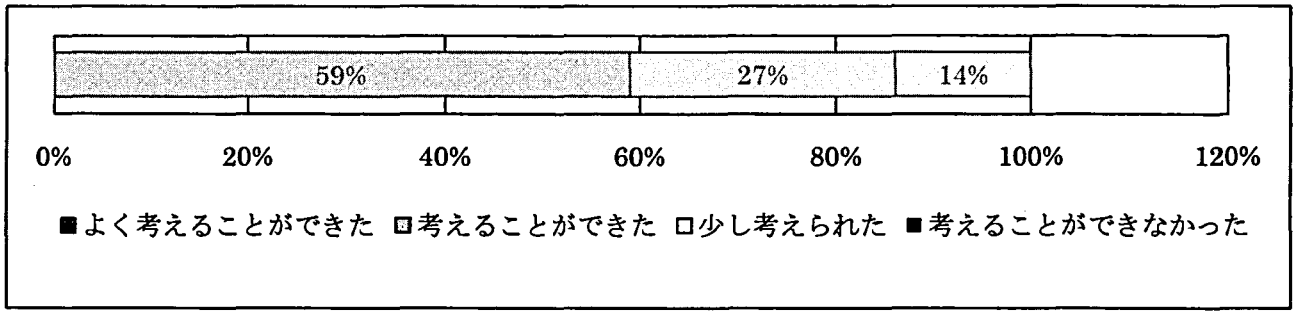
資料１【２Ｃ３Ｔの教材解釈および本時の打ち合わせシート】

《児童のジグソーアンケートから》

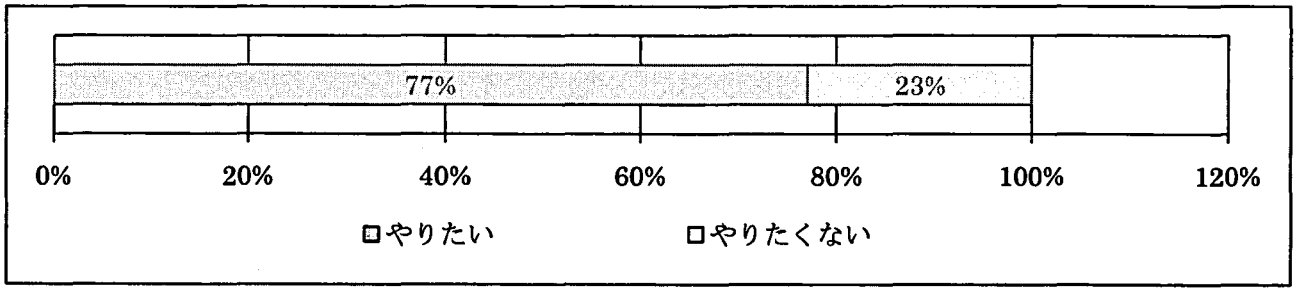
①ジグソー学習をしてたくさん考えることができましたか。



②友だちの意見を聞いて自分の考えを深めることができましたか。



③ジグソー学習をまたしたいですか。



<やりたい理由>

・いろいろ人と意見を聞くことができるから。

・グループで話し合うことによって意見を出し合うことができるから。

・友だちの意見を聞いて自分の考えと比べてみることができるから。

・班の友だちと交流して考えを伝え合うことが楽しいから。

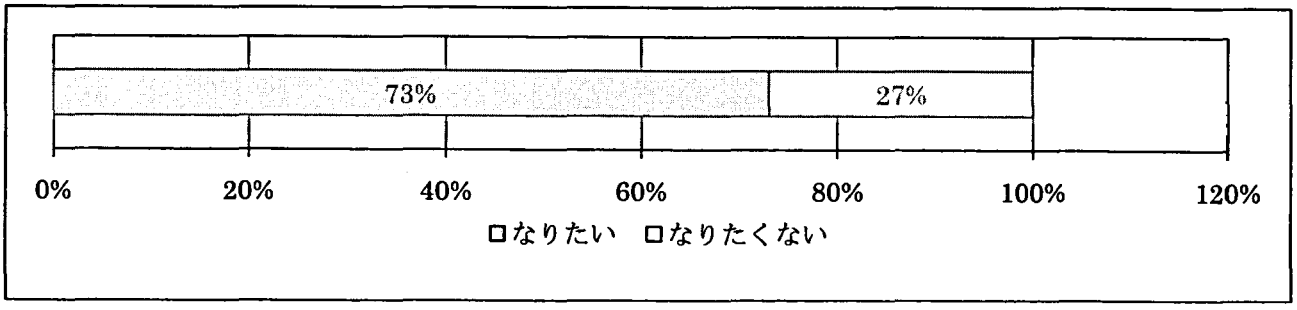
<やりたくない理由>

・自分の意見を発表しなければいけないから。

・たくさん考えないといけないから。

・意見がまとまらなかったら困るから。

④次回，ジグソーリーダーになりたいですか。



<なりたい理由>
・みんなをまとめて，意見を言うクラスにしたいから。
・みんなをまとめて，いいグループを作りたいから。
・まとめる力がついてきたから。
・みんなの意見を整理して，ちゃんとした勉強をしてみたいから。

<なりたくない理由>
・みんなの意見をまとめて発表するのが苦手だから。
・理由を言うのが大変そうだから。

3　成果と課題

【成果】

○１年間を見通して，どのような「学び型」をさせたいのか考えて学習形態を考えた。ジグソー学習をさせることは，児童自身にとって学習の学び型を知ることだと考える。主体的に児童が学習するためには，児童自身に学習に対する必然性を見出してやることが大切だと考える。そのために，ジグソーの学習形態は児童の主体的な学びを成立させるための１つの有効な手段であると考えた。

○アンケート結果でも，児童の意欲が高まったことが伝わってきた。また，必然的に対話がなされているので，活発に意見を言うことができる。

○アンケート結果からも，児童は，隣のクラスの児童や担任以外の先生と授業をするため，大変新鮮な気持ちで授業を受けていることがわかった。１単元のための学級編成であるため，その単元に対して集中して責任感を持って授業に臨むことができた。

【課題】

●ジグソー学習の成立のためには，同じく授業する指導者同士の授業に対する共通認識が必要である。そのためには，教材解釈が重要となる。個々思いのある中で，教材解釈をし，共通認識のもと授業を進めるには，学び合いのための時間が重要となり，時間の確保が必要である。

●ジグソー学習では，多種多様な考え方が出る。その意見を全体のものにするためには，グループでまとめ，意見を十分に理解することが必要である。しかし，時間設定がされているジグソー学習では，時間が足りないことが出ている。授業のねらいを明確にした上で，意見をどのように精選させていくか，指導していかなければならないと思う。